

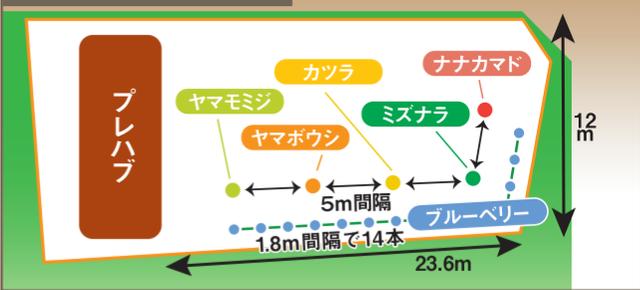
農ある風景のキャンパスづくりプロジェクト

圃場完成記念植樹を実施

北海道オホーツクキャンパス前に整備された圃場で、2025年6月13日、「農ある風景のキャンパスづくりプロジェクト」の一環として圃場完成記念植樹を実施した。



憩いスペース 植樹計画



植栽樹種一覧

- 緑化木 5本**
 - ・ナナカマド
 - ・ミズナラ
 - ・カツラ
 - ・ヤマボウシ
 - ・ヤマモミジ
- ブルーベリー 40本**
 - 品種
 - ・ノースランド
 - ・ブルーレイ
 - ・ヌイプル
- ハスカップ 10本**
- リンゴ 6本**
 - ・ふじ
 - ・紅玉

本植樹は、本学と包括連携協定を締結し、厚木および北海道オホーツクキャンパスにおいてBSC工法による法面



採餌源となるヤマボウシ

【岡田慶一(北方圏農学科助教)】

緑化施工を行っている株式会社日健総本社の寄付により実現したものである。植栽にあたっては、農作業中の憩いの場となるよう、木陰が得られ、花や実、紅葉を楽しめる樹種として、ナナカマド、ミズナラ、カツラ、ヤマボウシ、ヤマモミジの5種を選定した。これらの樹種は、景観的な効果に加え、最高級備長炭の原料となるナナカマドや、野鳥の採餌源となるヤマボウシ

土庄町と包括連携協定締結



左から、岡野町長(土庄町) 江口学長(東京農大)

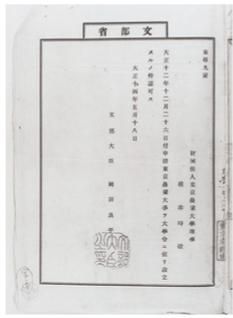
5月23日、東京農大は香川県小豆郡土庄町との包括連携協定を締結した。土庄町は温暖な瀬戸内式気候に恵まれ、豊

富な地域資源を活用したまちづくりを推進している。2022年度から国際食農科学科の教員及び学生が地域資源の活用と食文化探求を目的に現地で活動している。また同年から地元企業2社と、土庄町の食材の魅力を発信する「小豆島マルシェ」が始まり、学生がメニューを考案・販売。その成果が収穫祭や港区マルシェで発表された。これらの土庄町との活発な交流が

食農、現地で活動

続く中での協定締結となった。締結式には江口文陽学長や岡野能之町長らが出席し、協定書に署名した。江口学長は「農林水産資源が豊富なこの地で、総合農学としての本学の知見をもって、町が抱える課題解決に貢献していきたい」と述べ、岡野町長は「人材交流や6次産業など街づくりの推進に対しても、学生目線からの意見に期待したい」と本学との連携に期待を述べた。【田中凜起】

大学令100年の節目



東京農大は2025年大学令による創立から100年を迎えた。建学の祖は、幕末から明治にかけて活躍した榎本武揚。1891年の育英堂農学科を原点に、1911年には横井時敬が初代学長に就任。1918年に大学令制定後、横井をはじめ学校、学生、卒業生が一丸となって資金調達に励み、1925年に大学として認可を受けた。

戦火で校舎や設備の大部分を焼失するも、1946年には現在の世田谷にキャンパスを移転。その後も横井が築いた建学の精神「人物を畑に還す」のもと、1989年には北海道オホーツクキャンパスを、1998年には厚木キャンパスを開設し、その他演習林や農場の開設、併設校の設置、学部学科・研究科の新設など進化を続けている。経営難による廃校の危機や戦後の再出発などを何度も乗り越えた東京農大は、これからも「総合農学」を実践する人材を育成していく。



【石塚真維】

『Discover Japan』の特集 大学令100年を記念し、雑誌「Discover Japan」2025年6月号「人生食」をテーマに、食と農の関係を掘り起こす。100年時代、食を考える。『Discover Japan』で東京農大の魅力を探る。歴史、施設、研究内容など様々な視点から、19ページにわたって特集。Webでも記事が公開されている。



2025年(令和7年)7月号 第104号



東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 1891

「総合農学」を推進する

- 世田谷キャンパス 大学本部
- 大学院・応用生物科学部
- 生命科学部・地域環境科学部
- 国際食料情報学部
- 厚木キャンパス
- 大学院・農学部
- 北海道オホーツクキャンパス
- 大学院・生物産業学部

4月・7月・12月発行 編集 東京農業大学 学長室企画広報課 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 https://www.nodai.ac.jp



HEADLINE

- 研究最前線・北方圏農学科/「美シネス教育シンポジウム」開催/「日本造園学会賞」受賞/きのこ図鑑……………2
- 研究室から農学研究科城戸美紀さん/学長の愛したフィールドの旅(棚沢圃場篇)/受験生向けイベント情報……………3
- 農友会の活動「オホーツク硬式野球部・ホッケー部・レスリング部」相撲部 混声合唱部……………4



第4回 SDGs コンテスト

「東京農業大学SDGsコンテスト」を今年も開催！SDGs17の目標と本学が掲げる「学びのキーワード」から、地域社会をより良くするために、君に今できること・今から出来ることについて、小論文を募集する。

応募期間 2025年 **7.1(火) ~ 9.5(金)** 必着

応募対象 高校生 **作品募集中**

詳細は こちらから

研究最前線

研究成果(共同) 北方圏農学科 平山 博樹 教授ら 30年間保存した凍結受精卵から子馬誕生

北海道の在来馬である北海道和種馬(通称ドサンコ)は、その頭数が減少傾向にある。これに対し、北海道立総合研究機構畜産試験場では、受精卵の凍結保存技術を活用した種の保存に取り組んでいるが、長期保存した受精卵の生存性は検証されていなかった。

サラブレッドの繁殖は自然交配が原則であることもあり、馬の人工繁殖技術は牛や豚などと比べて研究が遅れている。元畜産試験場場長・山本裕介博士は馬の受精卵凍結技術の先駆者であり、世界で初めて凍結受精卵からの馬の生産に成功した実績を持つ。

今回、畜産試験場研究員時代の上司であった山本博士による指導の下、学生とともに凍結受精卵を用いた北海道和種馬の生産に挑戦した。昨年6月、畜産試験場から提供された凍結受精卵を4歳の北海道和種馬「レラ」(アイヌ語で「風」の子宮に移植した。学生たちは超音波画像診断装置を使用し、排卵確認や妊娠鑑定を担当した。学生の努力もあってレラは一度で妊娠し、本年5月15日20時30分、30年もの時を超えて雄の子馬「エム」(アイヌ語で「太刀」が無事に誕生した。



分娩前後の管理を担当した学生たちと平山教授



放牧地で母馬のレラからミルクをもらう子馬のエム

和種馬、種の保存研究が前進

出産後は、初産であったレラが授乳を拒否し、学生たちが中心となって初乳を絞り、エムに哺乳して母子間の免疫移行を促した。その後も3〜4時間おきに授乳訓練を続け、2日後にレラが授乳を許容した時には、全員で胸をなで下ろした。現在は、親子ともに元気に放牧地で過ごしており、母乳を飲んだエムの体重は出生時の28キログラムから3週間で45キログラムに増えた。

多くの在来馬は飼育頭数が減少しており、今後は近親交配が行われるリスクが高くなる。過去に保存された受精卵は、遺伝的多様性を回復するための貴重な資源となる。本成果は、北海道オホーツクキャンパスと北海道立総合研究機構の包括連携協定の一環として実施されたものであり、馬の保存や繁殖効率の向上に貢献することが期待される。

【平山博樹(北方圏農学科教授)】



企画チーム…左から齋藤馨教授、栗野隆教授、福岡孝則教授、國井洋一教授(金澤弓子准教授は依命留学中のため不在)

A4変判 288頁 定価3,850円(税込) ISBN978-4-86358-929-2 発行: 建築資料研究社

「農大造園の100年と100人のしごと」企画チーム 「日本造園学会賞」受賞

関東大震災の翌年に開校した東京高等造園学校が今の造園科学科だ。昨年創設100周年を迎えた当学科で刊行したのが『東京農業大学造園科』

学科100周年記念時代をつくる造園家のしごとである。この業績により、5月17日に開催された日本造園学会全国大会にて「日本造園学会賞」を受賞した。本書は、庭園・公園づくり、まち・地域づくり、ランドスケープデザイン、都市緑化、自然保護など、農大造園が輩出した100

多くの日本人に親しまれている美味しいキノコ。素焼きや鍋料理、干して濃厚な出汁を活かした炊き込みご飯など、さまざまな料理に活用されており、椎茸特有の成分“エリタデニン”は動脈硬化や高血圧の予防など、生活習慣病の予防にも効果が期待されている。ちなみに、学長のおすすめは炙った椎茸に醤油を垂らして食べるのが美味しいとのこと。冬の時期に収穫された身の引き締まった肉厚な椎茸なら絶品だそうです。冬まで待ち遠しいですね。【文・寺田守一、写真・江口文陽(学長)】

第10弾

シイタケ

椎茸、香茸 学名: *Lentinula edodes*

生活習慣病 予防にも効果的な美味しいキノコ!



本学の展示ブースの様子(上) 食香粧化学科の展示(下)

「オホーツク学」の一環として実施され、今年度は「美をテーマにプログラムが進行している。」

第一部では東京農業大学、神戸大学、ロート製薬株式会社ならびに株式会社アルビオンよりそれぞれ担当者が登壇し、「美に関する最新の研究や市場の変化、産学連携



昨年度の「オホーツク学」の様子。テーマは「水域」

「美」に関する研究や製品に触れる機会を設けた。本学は「農学から見た美の学び」をテーマに、生物産学部の4学科が取り組んでいる研究の紹介を行った。当日は雨天による展示ブースが設置され、来場者が実際に「美」に関する研究や製品に触れる機会を設けた。

第二部では大学や企業による展示ブースが設置され、来場者が実際に「美」に関する研究や製品に触れる機会を設けた。

「美」に関する研究や製品に触れる機会を設けた。本学は「農学から見た美の学び」をテーマに、生物産学部の4学科が取り組んでいる研究の紹介を行った。当日は雨天による展示ブースが設置され、来場者が実際に「美」に関する研究や製品に触れる機会を設けた。

大阪で高大連携 「美ビジネス教育シンポジウム」開催

高大連携「美ビジネス教育シンポジウム」が5月24日に大阪国際中学校高等学校で開催された。本シンポジウムは生物産学学部が行っている高大連携教育プログラム

「オホーツク学」の一環として実施され、今年度は「美をテーマにプログラムが進行している。」

第一部では東京農業大学、神戸大学、ロート製薬株式会社ならびに株式会社アルビオンよりそれぞれ担当者が登壇し、「美に関する最新の研究や市場の変化、産学連携

の取り組みについて講演が行われた。本学からは食香粧化学科と株式会社アルビオンとの共同研究について具体的に紹介し、産学連携の意義を伝えた。講演後の座談会では高校生から多くの質問が寄せられ、「美」への関心の高さがうかがえた。

高大連携教育プログラム「オホーツク学」では、北海道オホーツクキャンパスが立地する網走市近隣の自然や産業(農業、漁業など)を題材に、唯一無二の学びを展開。

テーマに基づき事前学習を経て現地に行ってきた中高生に、フィールドワークを通じて主体的かつ対話的な深い探究学習を体験してもらおう。このようなフィールドを使った探究学習において自身のキャリアデザインまで意識を向けさせる教育プログラムは全国的にも珍しい。ぜひ挑戦していただきたい。【下井岳(北方圏農学科教授)】



から8月2日にかけて北海道オホーツクキャンパスにてフィールドワークも企画されており、生徒たちはさらに「美」について探究を行う予定である。【山本久美子(食香粧化学科助教)】

受験生向けイベント 好評スタート!

オープンキャンパス



5月25日は厚木で、6月15日は世田谷でオープンキャンパスを開催した。

厚木では1003名と昨年を大幅に上回る来場者を迎え、施設見学ツアーを始めさまざまなプログラムが満員となった。帰り際の収穫体験も活況で参加者は満足そうに帰路についた。

世田谷でも昨年度を大幅に超える1908名の来場があった。学び体感を始め、学部で実施するツアーも賑わいを見せ、熱心に教員や学生の話に耳を傾ける高校生が印象的だった。

6月21日のオホーツクでは、夏休み期間ではない通常の週末開催だったが来場者96名のうち全体の7割以上が本州からの参加だった。この日の網走は30度を超え、参加者は予想していなかった暑さに驚きつつも、各学科の教育・研究やオホーツクの学生生活について興味津々に聞いていた。



6月29日に開催された富士農場見学ツアーは、今年も予約が早期に埋まった。キャンセル待ちで参加できた方や、北海道からお越しの方など、当日は72名が参加した。参加者は、感染症防止のため、防護服と靴カバーを装備。班に分かれて肉牛・乳牛・豚・家禽の4部門における教育・研究環境を回り、各部門での説明に熱心に耳を傾けていた。お土産にホロホロ鳥の卵を受け取ると、おいしい調理法を聞くなど、珍しい卵に興味を示していた。ホロホロ鳥の卵には卵かけご飯をおすすめしたい。

イベント詳細をチェック

| SCHEDULES | 厚木 キャンパス | 世田谷 キャンパス | 北海道オホーツク キャンパス |
|--|-----------------------------------|----------------------|---|
| オープン キャンパス <small>事前 申込制</small> | 8/2(土)-8/3(日) | | 7/20(日) 7/26(土) 8/23(土) 2026年 3/21(土) |
| オンライン オープン キャンパス | 8/22(金) <small>事前 申込制</small> | | |
| 収穫祭 | 11/1(土)- 11/2(日) | 10/31(金)- 11/2(日) | 10/12(日)- 10/13(月) |

- 農学部デザイン農学科 実習体験 高校生対象 厚木キャンパス 8/5(火)
- 農学部まるわかり説明会 高校1・2年生対象 厚木キャンパス 12/21(日)
- 生物産業学部説明会 オンライン 北海道オホーツクキャンパス 2026年2/23(月)

ペンギンって 浮気者?

東京農大大学院 農学研究科 動物科学専攻 博士前期課程2年 城戸 美紀さん

水族館の人気者マゼランペンギンのDNAを検査し親子関係を明らかに

研究室
から 13

マゼランペンギン(Spheniscus magellanicus)はペンギン目・ペンギン科・フンボルトペンギン属に分類される鳥類である。南アメリカの大西洋沿岸部および太平洋沿岸に生息する体長約70センチの中型のペンギンである。日本では約15カ所の水族館で飼育されている。準絶滅危惧種に指定されており、水族館で繁殖が進められている。繁殖を円滑に行うためには、血



城戸 美紀(きどみのり)さん
出身: 愛知県豊田市
趣味: 居酒屋巡り
研究を選んだキッカケ: 学部生の頃から動物の疾患に関するDNA解析に取り組んでいた経験から、ペンギンのDNA検査の話をもっと先生にいただいたこと

水族館飼育下におけるペンギンの繁殖に貢献したい

しかし、近年の研究でペンギンは「浮気者」であることが分かった。ペンギンのヒナを育てている父親と遺伝的な父親が違うことが報告されている。そこで、マゼランペンギンのDNAを検査し、親子関係を明らかにすることを目的とした。親子鑑定はDNAが個体間で少しずつ異なることを利用している。この違いを見つければ「標識遺伝子」を使えば、個体を識別することができる。私たちは国内の水族館

縁関係をはっきりさせ、繁殖に適した個体を選出する必要がある。一般的にマゼランペンギンは一夫一妻制であるため、血縁関係が明瞭であると考えられる。



愛くるしいマゼランペンギン

と協力しマゼランペンギン55個体の血液を集めた。血液からDNAを精製し、DNA配列を比較した。その結果、DNA配列の異なる箇所を133万8524個見つけることができた。その中から親子鑑定に利用できる50箇所を選び、「標識遺伝子」として開発した。現在、これらの「標識遺伝子」が実際に親子鑑定に有効か確認している。【城戸美紀】



研究に没頭する城戸さん

連載 学長の愛したフィールドの旅【棚沢圃場篇】

東京農大の原点 「稲のことは稲に聞け・・・」



農学部1年生が取り組む田植え実習の様子

東京農業大学農学部は組織内に棚沢圃場がある。圃場は、伊勢原農場の一部だが、農場から北へ約15キロの厚木市北部に位置する。この地は、山中湖を源とする相模川のつくる相模平野の北端、相模川と東丹沢山地

を源とする中津川に挟まれた日当たりの良い場所だ。豊富な水量を有する河川による侵食地形は、河岸段丘崖を形成し、地層には河川反乱による堆積層や隆起も見られ、地層の有機物は肥沃土壌を構築した。扇状地に形成

される砂礫地盤でもあることから水はけの良い場所もあり、堰の改修工事が実施された記念石碑が散見される。幹線水路から用水を巧みに切り回して広い平野の水田に水を送る技術と先達の知恵を学ぶ現場としても実学教育にとって有益な圃場である。各所のマンホール蓋には、「用水」と刻まれたものがあり、デザイン性について学ぶことが学生の今後の糧になるだろう。

田植えの実習は、体験だけではなく代掻き、水張りが如何に苗を土壌に活着させるのか、雑草の成長抑制・土壌への空気の供給や温度調整に効果を齎すか、水張りの深さによる定植期の低温障害の回避や雑草の生育抑制、さらには稲の成長後の浅水管理や落水などについても学び、台風被害などによる倒伏防止や刈り取り時のコンバインの作業効率化などについても学ぶのだ。

昨今のコメ価格やコメの流通問題についてもこうした現場での学びから対処方策を農大生ならではの視点で考察してもらいたい。【江口文陽(学長)】

輝く汗と涙

農友会活動

弾ける笑顔

男子ホッケー部

関東学生ホッケー春季リーグ 男子1部
2017年秋季以来20回目の優勝



チーム一丸となってリーグ戦優勝を決めた

2025年度関東学生ホッケー春季リーグ(4月5日〜6月29日)男子1部優勝決定戦が、5月25日、早稲田東伏見ホッケー場で行われた。本学ホッケー部男子は昨年王者の山梨学大と対戦。60分では決まらず、シュートアウト戦にもつれ込み、2-2(SO3-1)で、2017年秋季リーグ以来20回目の優勝を勝ち取った。

最優秀選手に曾根友之輔(創成1



女子ホッケー部も同春季リーグで強さを見せ、3位に入賞した。6月8日、大井ホッケー場(サブピッチ)で行われた

ホッケー部 女子3位入賞

立教大との1部3位決定戦を2-0で勝利。序盤から拮抗した展開で、立教大の粘り強い守備に阻まれ得点に結びつけることができずに迎えた第4クォーターで先制、貴重な2点を挙げた。前半からの主導権を維持しながら、最後まで手を緩めず粘り強く戦い抜いた勝利だった。この結果を受け、7月の王座決定戦にはホッケー部の男子女子が出場する。【住友寛美】

オホーツク硬式野球部

北海道学生野球I部春季リーグ戦 優勝
全日本大学野球選手権大会 6大会連続21回日出場



延長11回サヨナラ勝ちでリーグ戦優勝が決定

オホーツク硬式野球部が令和7年度北海道学生野球I部春季リーグ戦において、2季ぶり38回目の優勝を果たし、第74回全日本大学野球選手権大会(6大会連続21回目)に出場した。リーグ戦では、堅実な守備と投手陣の安定感が光り、10戦全勝で優勝を成し遂げた。最終節の函館大戦では、延長11回サヨナラ勝ちで優勝を決めるなど、粘り強い戦いが際立った。最高



先発の渡辺恵多投手(自然4年)



躍動した中澤主将

全日本1回戦、惜敗

全勝優勝したリーグ戦の勢いをそのままに、選手権でも上位進出を目指して戦ったが、京滋大学野球連盟代表の強豪、佛教大に序盤で主導権を握られ、中盤から終盤にかけては粘り強さを発揮したが、結果は5-8で初戦敗退となった。最後に全学応援団を中心に明治神宮球場まで足を運びご声援いただいた皆さまに感謝申し上げます。【助監督 嶋田達郎】

殊勲選手賞にはキャプテンの中澤空芽(自然4年)、首位打者賞には友寄功太(自然4年)、ベストナインには6名が選出されるなど、安定した戦いぶりを見せた。

混声合唱部 HallenChor

いきものがかり「彩り」CDコーラス参加&音楽番組出演



いきものがかりのお二人とHallenChor(ハーレンコール)のMステ出演メンバー

混声合唱部HallenChorは2024年10月、小田急グループの企業CMに歌唱協力した。そしてこの度、CMで使用した楽曲「いきものがかり「彩り」のアルバム収録にあたり、再び合唱で参加することに。4月30日のCDアルバム発売後、音楽番組にもコーラスサポートメンバーとして出演。5月5日にはTBS

「CDTVライブ!ライブ!」に、5月23日にはテレビ朝日「ミュージックステーション」に出演した。参加した学生は「素晴らしい経験をさせていただいた。どれも一生の思い出」とCMでの歌唱に始まりCDでのコーラス参加、音楽番組への出演に至るまでの貴重な経験の数々に感謝の言葉を述べた。【石塚真維】

相撲部

相撲部、快進撃止まらず



第42回全日本大学選抜相撲宇和島大会で優勝した木下選手(中央)

相撲部の躍進が春から止まらない。木下優希(森林4年)は、全日本大学選抜宇和島大会(4月29日)で優勝(団体戦ベスト8)、全国選抜大学・社会人対抗相撲九州大会(5月5日)で準優勝、全日本相撲個人体重別選手権大会(5月11日)の男子シニア重量級で3位入賞と、大活躍している。最近の東日本学生相撲選

手権大会(6月8日)では団体戦第3位、個人戦では松澤魁人(開発4年)がベスト8と安定した強さを見せた。立ち合いから一瞬で畳みかける相撲、粘りで勝利する相撲など、普段の稽古の成果を遺憾なく発揮する学生たちにエールを送ってくださる皆様に感謝申し上げます。【部長 栗野隆】

レスリング部

辻川 耕平選手、吉田 拓真選手、JOCジュニアオリンピックカップ3位入賞



表彰台の吉田選手(右端) 表彰台の辻川選手(右から2番目)

本大会での入賞は13年ぶり

4月26日、横浜市(横浜武道館)にて開催された「2025年JOCジュニアオリンピックカップU20全日本選手権大会(18〜20歳までの全国大会)」において、レスリング部が出場した。辻川耕平(工学1年)がグレコローマンレスリング82kg級で3位、吉田拓真(造園1年)がフリースタイル92kg級で3位にそれぞれ入賞した。本大会での入賞は、



2012年以来13年ぶりとなる。この勢いを、リーグ戦や東日本新人戦、全日本大学選手権などに繋げたい。【監督 三浦正司】